

緑がつなぐ未来の暮らし

～西大宮におけるモビリティが支える都市空間の提案～

BR17034 小山一真
指導教員 鈴木俊治

1. 研究目的・背景

近年、ライフスタイルの変化に伴い、人々の暮らし方や都市開発の在り方に変化が起きている。新型コロナウイルスの影響もあり、テレワークの普及やオンライン会議などが普及し、外に出て楽しむことがより一層大切なこととなっている。さらには、パーソナルモビリティの進歩も見られる。

それを受け、本研究では、ベッドタウン化が進んでいるさいたま市の郊外地区である西大宮地区を対象として人々のライフスタイルの変化やモビリティの進展に合わせた未来の理想の都市空間を提案する。

2. 対象地の概要

2-1. さいたま市西区の概要



図1 対象地の位置

さいたま市西区は、さいたま市の西部に位置しており、緑地や田畑の多い自然豊かな地域である。のどかな風景が広がり大型公園も多く、市民の憩いの場となっている。

面積：29.12km² 人口：93,091人
世帯数：41,567世帯（2020年10月1日）

2-2. 対象地の位置と周辺状況

対象地は、JR川越線西大宮駅から徒歩10～20分ほどにあり、西大宮2丁目に位置し、約11haの面積となっている。2011年の駅開業によって各住宅メーカーによる新規住宅開発が進んでいる。また、対象地内には、滝沼川や福田稲荷ふるさとの森、生産緑地といった多くの自然環境が多く存在しており地域資源となっている。

対象地周辺には、Jリーグのクラブハウスや小中高、西区役所、スーパーなどが徒歩10分圏内にあり、生活しやすい環境は整っている。



図2 対象地周辺詳細図

2-3. 人口推移と世帯推移



図3 人口推移



図4 世帯割合

さいたま市西区は、宅地開発に伴い、世帯数や人口共に増え続けている。単独世帯の割合は、大宮区約33%に対し、西区は約23%となっており、ファミリー層が多い地区であると推定される。また、夫婦のみの世帯割合が多いことが特徴である。

2-4. 計画対象地の位置と周辺状況



図5 計画対象地



図6 現状写真

対象地には、営農センターや公民館などの施設が存在している。また、森や川などの自然も多く残っている。神社など文化的空間も存在する。

3. 問題提起と仮説

3-1. 問題点

【現状分析】

Strength

- ・新規居住者が多い
- ・ファミリー層が多い
- ・川・林といった自然

Opportunity

- ・モビリティ発展
- ・人口増加
- ・空地が多い

Weakness

- ・公園が少ない
- ・公共空間が少ない
- ・バラバラな宅地開発

Threat

- ・高齢者が増えていく
- ・開発に伴い、緑が減少している

【課題の整理】

- ①オープンスペースが不足している。
- ②宅地開発がバラバラに進んでしまっている。
- ③緑や川などの自然環境が活かされていない。

3-2. 仮説

(1) ワークスタイルの変化により、「働く」と「住む」の境界が薄まり、個人の時間が増える。

都市空間において、安らぎを与える空間や人と交流できる場所の価値が高まっていく。

(2) AIなどの技術により、人やものの動きが自動化しネットワーク化が進む。

高齢者が増加する未来では地区内移動をどうするかポイントになる。人だけではなく、物流や農産物の運搬なども自動化される。

■コロナ禍における変化を経ての仮説

(3) コミュニケーションがオンライン化し、人と人とのつながりが変化する。

オンライン会議やゲームなど新型コロナウイルスによって拍車がかかった。そうした変化は住まいや都市の変化にも結びつく。

(4) 時差出勤、テレワーク、オンライン授業などの普及に伴い、生活リズムが一部変化する。

都内への勤務が週2～3回で済むようになったり、勤務地が変化したりと生活リズムが変化している。

3-3. 解決したいSDGs

- ①地域拠点となる施設により、多くの世代が出会い、地域コミュニティの発展に繋がる。
- ③緑の環境を保全していくことに加え、車などの排気ガスの減少を目指していく。

4. 計画概要

4-1. 計画の基本方針



仮説に基づき、将来の西大宮におけるライフスタイルを想定しながら、設計する。対象地を住民が多様な地域活動の空間として生活できるような理想の空間づくりを提案する。

- ①豊かな自然環境をより活かしていく。
- ②免許返納した高齢者が増えることや自動運転が可能となる未来においてモビリティがまちを支える。
- ③LGBTや単独世代、ワーカーなど多様な人たちがいる中で、住宅を選択することができる環境を作る。

5. 設計概要

※街路のヒエラルキーを明確にした上で計画した。幹線道路からメイン通りである陣屋通りへ。陣屋通りから区画道路や緑道へとつながるネットワークとなっている。

1. 古民家カフェ「ふるさと」



図9 カフェイメージベース
福田陣屋を動態保存したカフェ。広場全体を眺められる。

MIRAIZU

多様な人たちが共同で住めるシェアハウスや夢を共有することができる中密度の住宅地。

3. 図書館



図11 図書館イメージベース
テレワークのための個室空間や自習に使えるスペース。
1階は、カフェと図書館が併設。

Green View Village

家庭菜園付き住宅や広い庭が特徴の低密度の住宅地。住宅地に共有のモビリティを持つ。子どもを持つ家族向けの住まい。



図8 平面計画図

2. レストラン



図10 レストランイメージベース
託児保育施設と農地を活かしたレストラン。テラスからは広場を一望できる。

貯水池公園

テニスコートやランニングコースとして活用し地域の住民が利用できる空間。

扇通り

地区を直貫する幹線道路。緑の軸となる道路であり、広域的なネットワークを展開する。

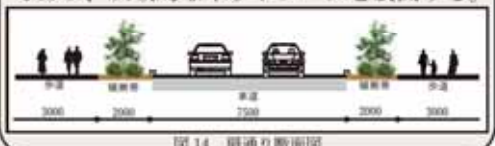


図14 扇通り断面図



4-2. 生活を支えるモビリティ



図7 小型モビリティ (90) のサイズ

モビリティの発展により、駐車場のスペースが半分で済むと推測できる。高齢化社会が進み、区内を安全に楽に移動できるかがポイントとなる。

表1 社会ニーズに対応するモビリティ検討例

社会ニーズ	モビリティ
宅配サービス	自動運転車が自宅のBoxまで配達する
地域野菜の移動販売	農地で作った野菜を広場や公園で販売
共有の車、自転車	住宅地で共有の車を保有し使用できる
高齢者の移動	自動運転により安全に快適に移動
在宅医療、ケアサービス	家の中までサポートできるモビリティ

■配置計画

駅に近い場所は住宅地の密度を高くし、駅から離れていくにつれ、低密度の住宅地となるように計画した。現在、森と未利用地となっている敷地には、生産緑地を活かした地産地消が特徴のレストランを計画する。森の中は通行可能とし、自然環境を活かし、より緑を感じられる計画とした。

軸となる街路である陣屋通りは、店舗が並び気軽に立ち寄ることができる空間となっている。

6. まとめ

この提案によって、変化していく社会に対応し、高齢者やワーカー、子どもたちなどの多様な人たちのライフスタイルを支える都市空間となる。地域の自然環境を保全し、活かしていくことで緑が未来へとつないでいく。これからの西大宮がよりよいまちになることを期待する。

参考文献

- ・さいたま市超小型モビリティ導入促進事業：https://www.city.saitama.jp/001/009/004/002/004/p040160_d/fil/gaiyo.pdf
- ・さいたま市人口データ：https://www.city.saitama.jp/006/013/005/001/index.html・「2040年、道路の景色が変わる」：https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf